

製品名: RCL ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16982**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	22kDa

抗原情報

遺伝子名	RCL
別名	RCL; C6orf108; Deoxyribonucleoside 5'-monophosphate N-glycosidase; c-Myc-responsive protein Rcl
遺伝子 ID	10591.0
SwissProt ID	O43598
免疫原	抗血清はヒト RCL 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 1-50

背景

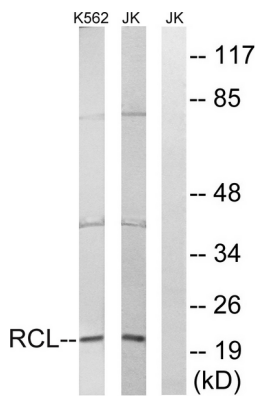
この遺伝子は、c-Myc タンパク質による刺激に基づいて同定されました。c-Myc は、細胞増殖、分化、およびアポトーシスの調節に

関与する転写因子です。この遺伝子の正確な機能は不明ですが、ラットを用いた研究では、細胞増殖および c-Myc を介した形質転換に関与することが示唆されています。異なるタンパク質をコードする 2つの代替転写産物が報告されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],注意: ここに示す配列は Ensembl 自動解析パイプラインから得られたものであり、予備的なデータとして考慮する必要があります。機能: 細胞増殖および c-Myc を介した形質転換において役割を果たす可能性があります。組織特異性: c-Myc を過剰発現するリンパ球系細胞で発現が上昇します。、

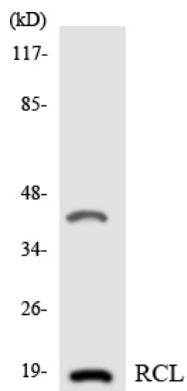
研究分野

その他の抗体; 細胞生物学; 細胞周期; 細胞分裂; その他の細胞分裂抗体

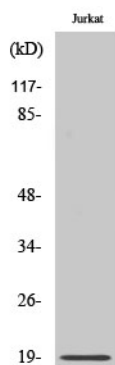
画像データ



RCL 抗体を用いた Jurkat 細胞および K562 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



RCL 抗体を使用した 293 細胞の溶解物のウェスタン ブロット分析。



RCL ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析